

復興支援パズル贈呈

1. はじめに

東日本大震災復興支援パズルを作り始めて早くも1年半が経とうとしている。毎回被災されおもちゃなどを流されてしまった保育所や幼稚園に送っている。今回で5作品目となる。

毎回東北大学の成田先生の自宅に送り、先生が直接被災地に出向き届けていただいている。今回は成田先生の強い要望もあり、現地へ直接贈呈することにした。

目的の一つは、現地を訪れ被災現場を肌で感じてもらい、建築を学ぶ者として防災意識や建築構造について学んで欲しいと思ったから。二つ目は、現地で直接手渡しすることにより、子どもたちの反応を直に見て、次回作につなげようと思ったからだ。

2. 報告事項

3月25日(火)

7時45分集合ののち、北国新聞の取材を受け出発

17時ホテル着、その後成田先生と打合せ。

3月26日(水)

7時30分ホテル出発、成田先生を乗せて南三陸町へ移動。

10時 南三陸町立伊里前保育所訪問

伊里前保育所の園児(年中・年少)が出迎えてくれた。贈呈式を行い、使い方や遊び方について話したのち、園児たちは同行した楽しそうにパズルで遊んでいた。南三陸の子どもたちから元気をいただきました。



11時20分 あさひ幼稚園訪問

あいにくインフルエンザ等で欠席の園児が多く、たった1人の園児との対面だった。その園児は先生曰く大人に対して不信感がとても強く、先生ともあまり話をしない。と言うことを聞かされての対面だった。しかしパズル

の包装紙を豪快に破り、一生懸命パズルと格闘し、先生にも「こんな初めてのだ。自分から話すことなんてないんですよ」と話してくれた。これもパズルがあつてならではのハプニングでだった。

また、この園舎は有名な設計士手塚ご夫妻の作品であった。園長はお寺の住職であるが、震災で倒れた木や傾いてしまった杉の木をベースに設計したそう。しかも移転も可能なようにボルトなどを使って建ててある。建築的にも面白いものであった。しかも、園舎はサッカー日本代表キャプテン長谷部選手がユニセフを通じ資金を出したそうで、年に数回は訪問してくるとのことであった。



12時30分 南三陸町防災庁舎 視察

最後まで自分を犠牲にしてまで防災放送を流し続けた女性。これは、メディアでも多く報道されていた。まさに、そこで、生徒達は何を感じたのであろうか。直接話してはいないが、自ら黙祷をしていた。



14時30分 石巻市立大川小学校 視察

今、裁判で話題の小学校。避難するなんてとても無理と。こんな急勾配登るなんて無理。堤防より低い地盤に建っているのに、川の様子を見るのは無理。実際に現場を見てそう感じた。でも、この場所に建つ慰霊碑には多くの方の名前が刻まれており、言葉も出せないままに、現場で黙祷をして、次に向かった。



15時30分 石巻市立大谷地保育所 訪問

今日午前中が卒園式と言うことで園児には会えなかったが副園長先生に直背パズルをお渡しした。出来栄が素晴らしいとお言葉をいただいたり、震災当時のこととお話ししてもらった。



16時20分 石巻市出発。17時30分 ホテルに到着した。

3月27日（木）

7時30分ホテル出発、成田先生と石巻市へ移動。

9時40分 石巻市立蛇田保育所訪問

全園児が出迎えてくれ、セレモニーまで開いてくれた。以前パズルを送ったところであり、そのお礼も込めて、園児たちが歌を歌ってくれたりした。その後年長のクラスで生徒達と園児が交流を図った。



12時 石巻市出発。小松への帰路についた。

20時 学校着

3. おわりに

今回の訪問で、当初の目的は達成された。震災の現場は映像だけではわからないことが多くあり、やはり地元を足で運ばないと、伝わる感じが全く違っていた。

また、園児とも交流を図ることで、パズルがどれほど園児たちが喜んでくれているのかも実感することができた。生徒達も何かを感じ取る事ができたのではないと思う。

機会があれば、1年に1度のペースで訪れたいと思った。また、次回の作品の構想も出来上がりつつある。このような機会を与えてくれた「小さなプロジェクト」主宰、成田先生には大変お世話になり、感謝です。